

特別展

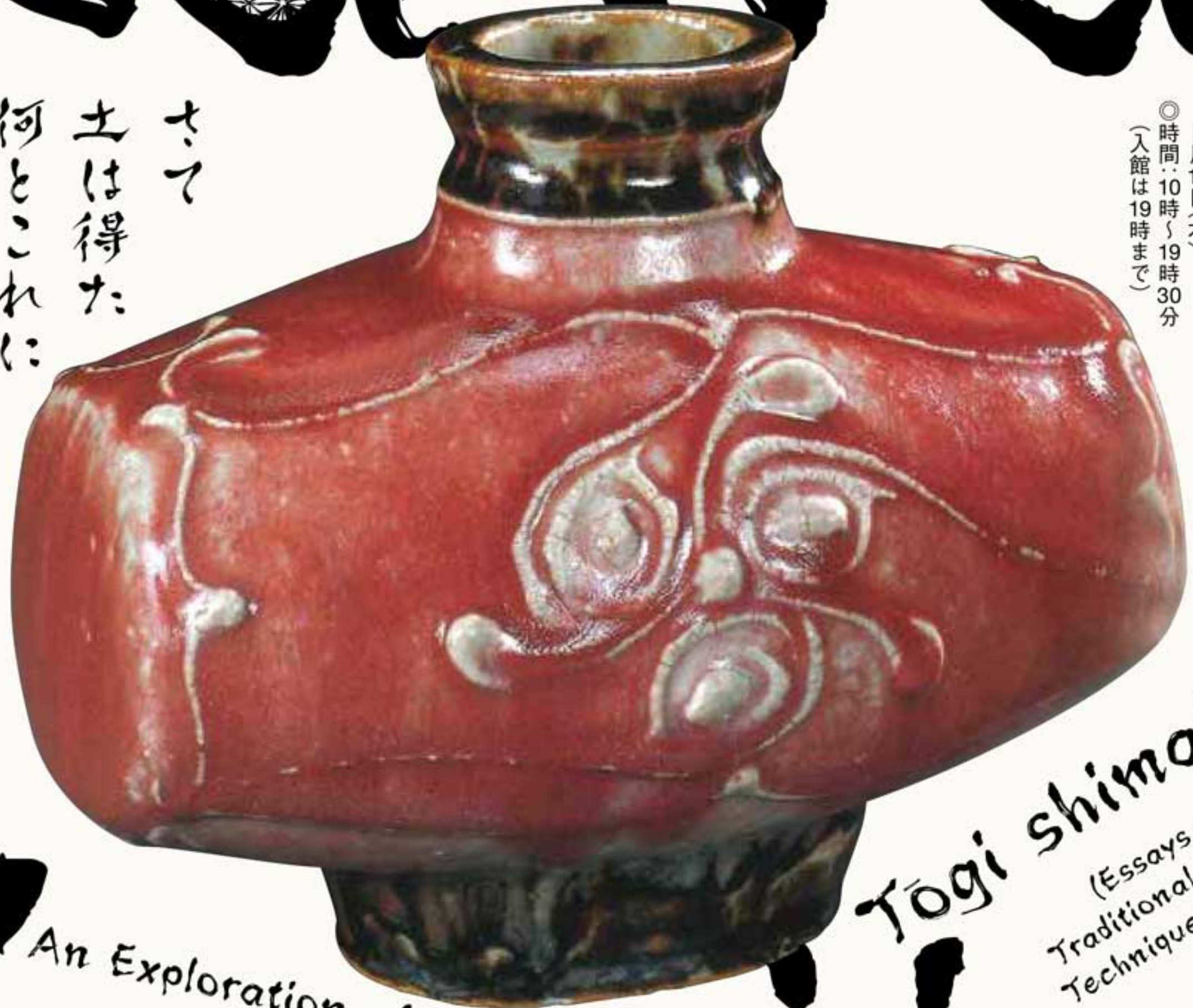
# 末始女技陶 河井寛次郎の 陶芸

Special Exhibition:  
The Ceramics of

# Kanjiro

2022  
6/18 (土) — 8/21 (日)

● 休館日：月曜日（祝日の場合は翌火曜日）  
● 開館時間：10時～17時（入館は16時30分まで）  
● 主催：公益財団法人香雪美術館、朝日新聞社、毎日新聞社  
「夜間特別開館」  
● 開催日：2022年6月23日（木）、7月21日（木）、  
8月18日（木）  
● 時間：10時～19時30分  
（入館は19時まで）



さて  
土は得た  
何とこれに  
挨拶しよう。

辰砂編織  
1948（昭和23）年  
京都国立近代美術館（川勝コレクション）

中之島香雪美術館  
Nakanoshima Kosetsu Museum of Art

An Exploration of

# Kanjiro

Tōgi Shimatsu  
(Essays on  
Traditional Ceramic  
Techniques in Japan)



①

の中心的人物として活躍します。戦後は、用途をもたない陶彫による造形作品を展開します。本展のタイトル「陶技始末」は、河井が各地の窯場を訪問した際の実見録を、民藝運動の機関誌『工藝』に寄稿していた連載のタイトルです。河井の未紹介陶芸作品を中心に、創作活動の始まりから終わりまでをたどり、併せて、河井を支援した関西の収集家たちによるコレクションも紹介し、計約100点を展示します。

河井寛次郎(1890-1966)は、近年の「民藝」ブームにより、注目が増している陶芸家の一人です。河井は島根県安来に生まれ、東京高等工業学校窯業科(現東京工業大学)に入学し、窯業を学びます。大正3年(1914)に京都市陶磁器試験所に入所し、同9年に五条坂の窯を入手して独立。「鐘溪窯」と名付け、以後没するまで京都で活動しました。同10年に開催した「第一回創作陶磁展」以降、初期は様々な釉薬の技術を駆使して、中国の古陶磁をモデルにした作品を発表します。ところが、思想家柳宗悦との出会いをきっかけに、柳・陶芸家の富本憲吉・濱田庄司との連名で、同15年に『日本民藝美術館設立趣意書』を刊行します。「用の美」に即した素朴な味わいの作風に大きく転換し、民藝運動



③



②

笑われても  
かまわない、  
一番初手で  
ぶつつかろう  
ではないか。



④



### 記念対談

## 寛次郎を<sup>ろう</sup>ご覧じろ

登壇者：鷺珠江氏(河井寛次郎記念館学芸員・河井寛次郎孫)  
梶山博史(当館学芸課長・本展企画者)

日時：2022年7月9日(土)14時～15時30分(受付開始13時30分)

会場：中之島会館(中之島香雪美術館隣)

参加料：500円(展覧会観覧には別途入館料が必要)

定員：120名(予定・先着順)

### 応募方法

1通で2名様まで応募可能。参加人数、それぞれの住所、氏名、年齢、電話番号を明記ください。

【メール】下記アドレス宛にお申し込みのうえ、返信メールを受け取れるよう受信設定をお願いします。E-mail:n-kouenkai@kosetsu-museum.or.jp

【往復ハガキ】返信ハガキの宛先には、代表者の住所・氏名をご記入ください。返信ハガキで参加証を郵送します。

【宛先】〒530-0005 大阪市北区中之島3-2-4 中之島フェスティバルタワー・ウエスト4階 中之島香雪美術館「河井寛次郎」展 対談係

【受付開始】2022年5月14日(土)

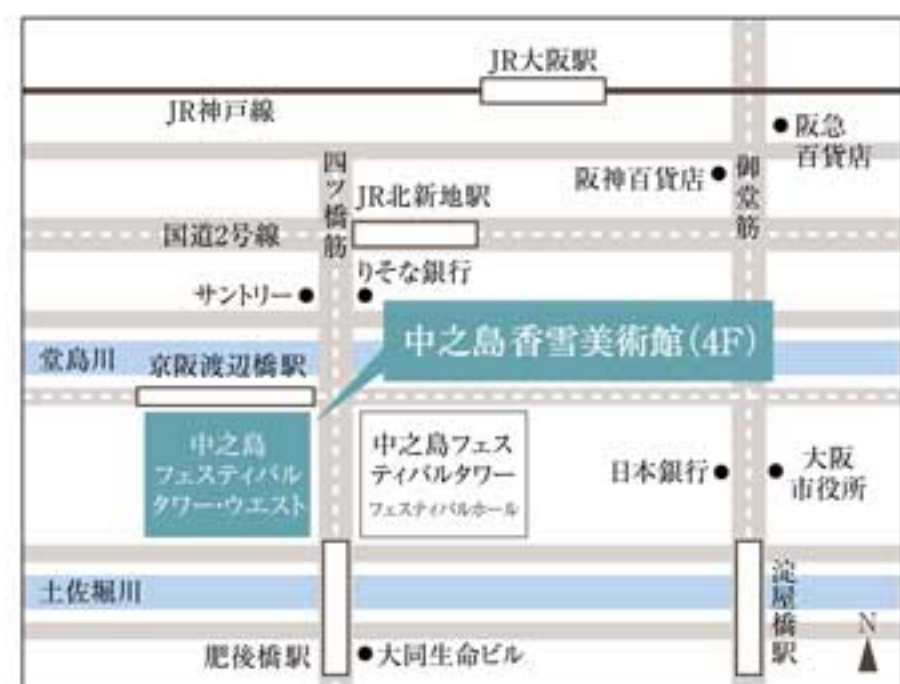
### 入館料

一般1100(900)円、高大生700(500)円、小中生400(200)円

※( )内は前売り(一般のみ)・20名以上の団体料金

### 次回の展覧会

「伊勢物語 — 絵になる男の一代記」 2022年10月8日(土)～11月27日(日)



## 中之島 香雪美術館

Nakanoshima Kosetsu Museum of Art

〒530-0005 大阪市北区中之島3-2-4

中之島フェスティバルタワー・ウエスト4階

TEL:06-6210-3766

https://www.kosetsu-museum.or.jp/nakanoshima/

Twitter@kosetsu\_museum

◎Osaka Metro四つ橋線「肥後橋」駅4号出口、京阪中之島線「渡辺橋」駅12号出口直結 ◎JR「大阪」駅桜橋口より徒歩約15分 ◎Osaka Metro御堂筋線・京阪本線「淀屋橋」駅7号出口より徒歩約8分 ◎JR「北新地」駅11-5出口より徒歩約8分



⑨



⑦



⑧



⑤



⑥

①鉄葉丸紋切鉢 1939(昭和14)年 京都国立近代美術館(川勝コレクション)②青瓷鱗血文蜻蛉架壺 1922(大正11)年頃 公益財団法人阪急文化財団 逸翁美術館③渦巻壺 1927(昭和2)年 公益財団法人阪急文化財団 逸翁美術館④黒釉面取塗分扁壺 1956(昭和31)年頃 河井寛次郎記念館⑤花扁壺 1947～1948(昭和22～23)年頃 香雪美術館⑥流描線文鉢 1931(昭和6)年 アサヒビール大山崎山荘美術館⑦三色打葉扁壺 1961(昭和36)年頃 河井寛次郎記念館⑧吳洲簡描花手文塗分扁壺 1951(昭和26)年頃 大阪日本民芸館⑨吳洲陶彫像 1962(昭和37)年頃 河井寛次郎記念館

